

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- |     |                                    |
|-----|------------------------------------|
| I   | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び   |
| II  | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成           |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築        |
| IV  | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V   | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成      |

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 宮津市立栗田中学校 】

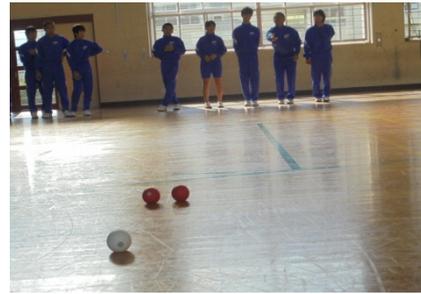
1 実践テーマ	【 I 】
2 実施対象者	栗田中学校全校生徒（男子33名 女子28名 計61名） 栗田小学校3・4年児童（男子11名 女子15名 計26名） 合計 87名
3 展開の形式	（1）学校における活動 ① 教科名（ 総合的な学習の時間 保健体育 ） ② 行事名（ オリンピック・パラリンピック教育講演会 ） ③ その他（ 特別活動 道徳 小中一貫教育 ） （2）地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	パラリンピック出場選手から、競技を始めたきっかけや思い、良かったこと、苦労したことなどを聞き、障がいを個性として捉え、前向きに取り組む姿を学び、自分の生き方を考えさせる。また、できれば実際に競技を体験することを通して、競技の大変さやすばらしさを知り、パラリンピックに興味を持たせる。
5 取組内容	（1）11月19日（月）～22日（木） 各学級で学活や道徳の時間を使い、オリンピック・パラリンピックや障がい者理解についての学習を行い、パラリンピックや障がい者スポーツに興味・関心を持たせた。  （2）11月26日（月）～30日（金） 保健体育の授業の中で、パラリンピックの歴史や意義、障がい者スポーツについて学ぶとともに、シッティングバレーを体験し、パラリンピックや障がい者スポーツに対する理解を深めた。  （3）12月3日（月） 2000年のシドニー・パラリンピックで、男子車いすバスケットボール日本代表の主将を務めた、日本パラリンピアンズ協会副会長の根木慎志さんを招き、講演と実演をしていただいた。  （4）12月4日（火）～14日（金） 講演を聴いたり、実演を見たりした感想とお礼を書き、根木さんに送るとともに、たよりを使って、それぞれの感想を交流した。

(5) 12月17日(月)～20日(木)

保健体育の授業の中で、障がい者スポーツのボッチャを体験し、障がい者スポーツの理解をさらに深め、取組のまとめとした。



シッティングバレー



ボッチャ



講演会(バスケットの実演)



講演会(花束贈呈)

## 6 主な成果

実際にパラリンピックに出場された方の話を聴き、車いすバスケットボールの実演を見ることにより、パラリンピックへの興味・関心が深まるとともに、障がい者理解を行う上でも大変有効であった。また、明るく前向きに頑張っておられるパラリンピアンのお話を聴く中で、自分のこれからの生き方を見つめることができた子どもたちも多くおり、大変有意義であったと思う。

### <生徒の感想>

すばらしい話を聴かせてもらったと思う。まず、「失敗は恥ずかしいことではないし、かっこ悪いことでもない」ということを聴かせてもらって、今まで自分は、失敗は次につながるかもしれないけど、かっこ悪いものだと思っていた。しかし、そのことを聴いて、恥ずかしいのは、失敗した自分ではなく、それを見て笑ったり、馬鹿にしたりする人だということがわかり、自信が持てた。

また、成功につながるのは、自分の力もちろんだが、それ以外に自分を応援してくれている人もいるんだなということがよくわかった。自分がやる側なら真剣に、また応援する側でも真剣にやるのが大切だということ学んだので、これからの生活にしっかりと生かしていきたいと思う。

私は今まで聴いた講演の中で、一番根木さんの講演が楽しかったし、ずっと覚えていると思います。根木さんは、とてもおもしろく、わかりやすく話をしてくれました。最初、私達の緊張をほぐすために、場の空気を和らげてくれました。「今日の目標は、みんなと友達になること」と言っておられて、ふつうに話しかけてくれました。バスケットを実演してくれた時、きれいにシュートを決めていらっしやっただので、すごいと思いました。私はバスケットが得意でなくて、シュートも難しいのですが、根木さんは座ったままされているので、どれだけすごいかがわかった気がしました。自分の実体験をもとに、やる前からあ

	きらめないことや、自分に自信を持つことを教えていただきました。楽しく話していただいて、時間の流れがとても速く感じました。
7実践において工夫した点(事業の特色)	本校は、近隣の栗田幼稚園、栗田小学校と小中一貫教育を進めており、その取組の一環としても位置付け、小学校の3・4年生にも参加してもらった。講演の中で根木さんは、小学生にもわかりやすく、冗談も交えながら話していただき、最後まで興味を持って聴くことができた。また、車いすバスケットボールの実演もしていただき、シュートを決められたときは、会場が拍手と歓声に包まれた。
8主な課題等	講師を選定することが大変難しかった。どこに問い合わせればよいかかわからず、また、謝礼10万円、交通費2万円という決まった予算の中では、北部まで来ていただける方を探すのが大変であった。 当日は、ご本人とマネージャーに来ていただいたが、謝礼、交通費は、決められた予算ではとても足りなかった。ご本人が赤字を承知で受けていただいた。
9来年度以降の実施予定	成果のところでも述べたが、パラリンピアンの方の話を聴くことで、子どもたちが学ぶことは大きく、自分の生き方まで考えることができた子どもたちが多かった。その意味で、来年度もパラリンピアンの方の話を聴き、障がい者スポーツを体験する取組を実施したいと思う。

京都新聞 十二月四日 掲載

### 「違い認め合うこと大事」

車いすバスケット日本代表・根木さん  
宮津で講演

シドニー・パラリンピックで車いすバスケット日本代表の主将を務めた根木慎志(54)が3日、宮津市上司の栗田中(講演)で講演した。集まった生徒や児童らに「人それぞれの違いをみんなが認め合うことが大事」と呼び掛けた。

同中の生徒や近隣の栗田小の児童約90人を前に、根木さんは車いすを自在に操りながらドリブルやスリーポイントシュートを披露。成功するたびに歓声が上がった。講演では苦学した跳び箱に何度も挑戦し

シドニー・パラリンピックで車いすバスケット日本代表の主将を務めた根木慎志(54)が3日、宮津市上司の栗田中(講演)で講演した。集まった生徒や児童らに「人それぞれの違いをみんなが認め合うことが大事」と呼び掛けた。

同中の生徒や近隣の栗田小の児童約90人を前に、根木さんは車いすを自在に操りながらドリブルやスリーポイントシュートを披露。成功するたびに歓声が上がった。講演では苦学した跳び箱に何度も挑戦し



児童や生徒を前に人それぞれの違いを認め合うことが大切と呼び掛ける根木さん手前(宮津市上司、栗田中)

産経新聞 十二月五日 掲載

### 根木さん「挑戦こそ大切」

宮津の中学校で講演

2000(平成12)年のシドニー・パラリンピックで、男子車いすバスケットボール日本代表の主将を務めた日本パラリンピアンズ協会副会長、根木慎志(54)が、宮津市立栗田中学校(同市上司)を訪れ、全校生徒61人と近くの市立栗田小学校の3、4年生26人を前に講演した。

国と府教育委員会の「オリンピック・パラリンピック教育推進事業」の一環として、根木さんは「誰かが違いを認めて素敵に生きよ」の演題で講演し、車いすバスケットボールのドリブルやシュートを披露した。

また、小学生のときに跳び箱が苦手だった経験を話

シドニー・パラリンピックで車いすバスケット日本代表の主将を務めた根木慎志(54)が、宮津市立栗田中学校(同市上司)を訪れ、全校生徒61人と近くの市立栗田小学校の3、4年生26人を前に講演した。

国と府教育委員会の「オリンピック・パラリンピック教育推進事業」の一環として、根木さんは「誰かが違いを認めて素敵に生きよ」の演題で講演し、車いすバスケットボールのドリブルやシュートを披露した。

また、小学生のときに跳び箱が苦手だった経験を話



生徒、児童の前でシュートを披露する根木慎志さん(宮津市上司)